



# 「地域元気指数調査 2019」

- ・2019年の地域元気指数は5.69→5.66とやや減少。住環境に対する不安、コミュニティへの帰属感の薄れなど、ごく身の回りの生活環境への評価の低下が、地域の元気を減退させている。
- ・20代男性のみ地域元気への評価がアップ、若年男性に地域の元気の兆しを感じ取る感性あり。
- ・都道府県第1位は5年連続「沖縄県（6.19）」、市第1位は4年連続「長久手市（7.20）」

株式会社アール・ピー・アイ(所在地：千代田区 代表取締役：長澤 博英)は全国約10万人の20～69歳の男女を対象に、住民自身が地域の元気度合いを評価する「『地域元気指数調査』」を2015年から実施しており、今年度で5年目になります（1年目は予調査）。

地域元気指数とは、地域の総合的な元気度及び、元気の源となる47の評価要素を数値化したものです。これによって、全国の都道府県別・市町村別の元気度や元気の評価要素を共通のモノサシで測定することができます。

本調査は、地域元気指数を定点調査しつつ、行政や住民自らが地域の元気を増幅することのできる施策や取り組みを明らかにし、地域の元気や個人の幸福度を高めることを目指しています。

## < TOPICS >

### 《全国結果》

- 2019年の地域元気指数・幸せ指数は、ともにやや減退感が強まった。…………… P2
- 住環境に対する不安、コミュニティへの帰属感の薄れなど、ごく身の回りの生活環境への評価の低下が、地域の元気を減退させている。…………… P2
- 地域の元気を感じているのは女性。20代男性に、地域の元気の兆しを感じ取る感性あり。 P3
- 20代男性は、地域に新しい変化をもたらす人材として、期待大。…………… P3

### 《都道府県別結果》

- 2019年の地域元気指数 都道府県では沖縄県が第1位、東京都が第2位。  
前年からの増加幅では岡山県が第1位。…………… P4
- 市部門は愛知県長久手市が堂々の4年連続第1位、福岡県福岡市が第2位。  
福岡県の市が躍進。…………… P4
- 沖縄県は多くの要素で他県を上回っている。しかし、各県にも強みがある。…………… P5

評価要素<抜粋>	上位都道府県
この地域ならではの歴史や伝統行事がある	第1位 島根県、第2位 青森県、第3位 秋田県
地域内に働く場が多い	第1位 愛知県、第2位 沖縄県、第3位 宮城県
地域を代表する特産品がある	第1位 青森県、第2位 香川県、第3位 宮崎県

### ●「地域元気指数調査 2019」に関するお問い合わせ

株式会社アール・ピー・アイ 東京都千代田区神田神保町 2-38 いちご九段ビル 3階  
E-mail : [genki@rpi.co.jp](mailto:genki@rpi.co.jp) 電話 : 03-5212-3411



《全国結果》

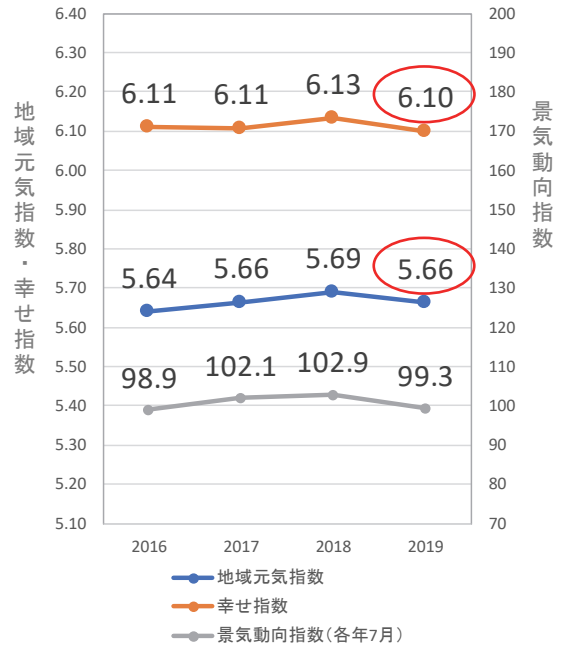
● **2019年の地域元気指数・幸せ指数は、ともにやや減退感が強まった。**

居住する市区町村に感じる元気の度合いを10点満点で尋ね、その平均を算出した地域元気指数は、2019年は5.66で、前年に比べ0.03ポイント低下した。

また、個人の幸せ感を10点満点で尋ね、その平均を算出した幸せ指数は、2019年は6.10で、こちらも前年に比べ0.03ポイント低下し、地域元気指数・幸せ指数ともにやや減退感が強まった。

各年7月の景気動向指数をみると、2019年は景気判断も悪化しており、地域元気指数の低下と一致している。地域の元気の判断は、特に経済的な観点に影響されている可能性が推測される。

【地域元気指数・幸せ指数の推移】



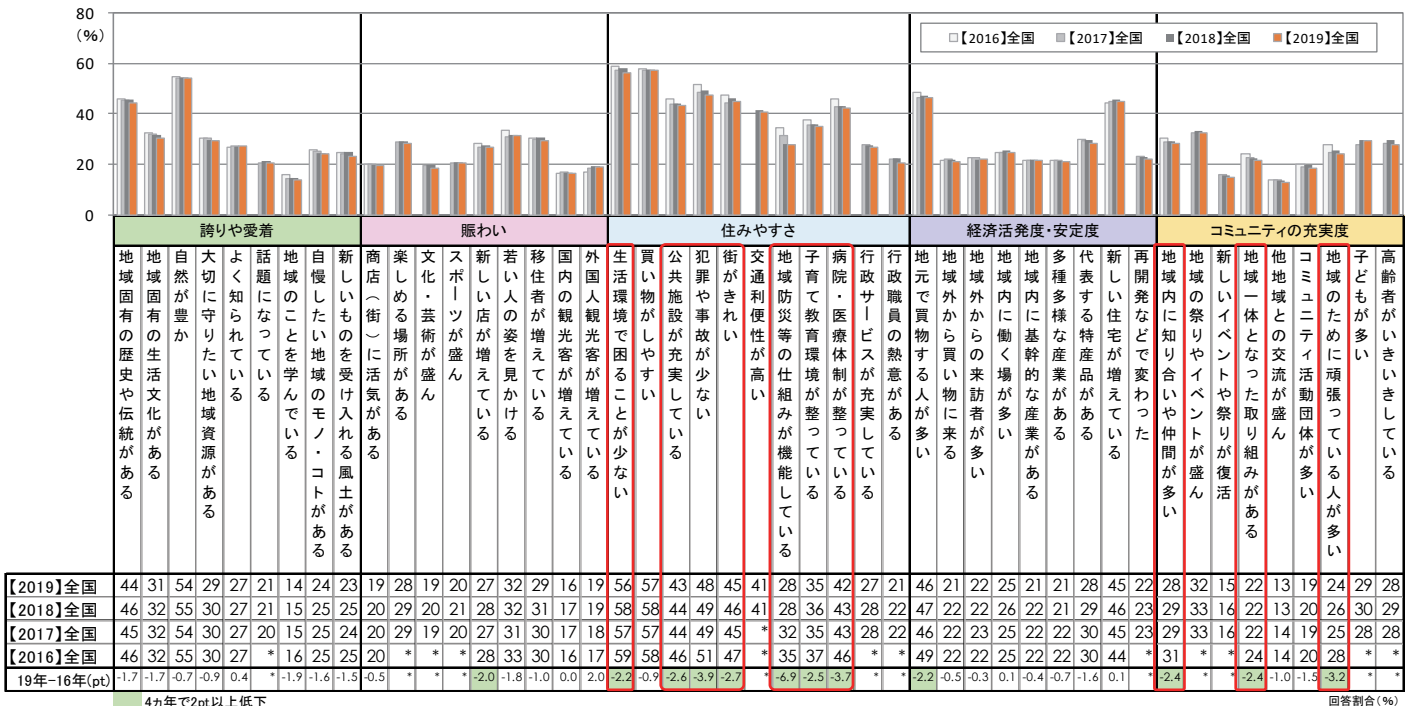
● **住環境に対する不安、コミュニティへの帰属感の薄れなど、**

**ごく身の回りの生活環境への評価の低下が、地域の元気を減退させている**

地域の元気をつくる源として47の要素を設定し、居住する地域に対する評価を尋ねた。47要素のうち、この4ヵ年で評価が低下した上位は【住みやすさ】に係わるものが多く、「地域防災等の仕組みが機能している」「犯罪や事故が少ない」「病院・医療体制が整っている」などで低下がみられた。ほかに【コミュニティの充実度】に係わる「地域のために頑張っている人が多い」「地域内に知り合いや仲間が多い」「地域一体となった取り組みがある」などの評価が低下している。

住環境に対する不安、コミュニティへの帰属感の薄れなど、ごく身の回りの生活環境に対する評価が低下していることが、全国的に地域の元気を減退させているようである。

【地域元気の評価 47 要素】（それぞれ単一回答／「当てはまる」「やや当てはまる」の合計）

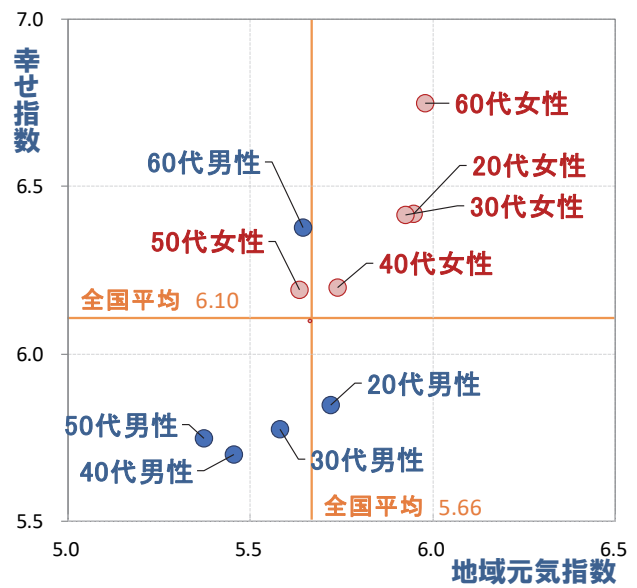


●**地域の元気を感じているのは女性。20代男性に、地域の元気の兆しを感じ取る感性あり。**

性年代別にみると、60代女性が最も地域の元気を感じており、次に20～30代女性が続く。女性のほうが男性より、個人としての幸せ感や地域の元気を感じており、女性が地域の元気をけん引していると言える。

ほとんどの性年代で、前年に比べ地域の元気に対する評価は低くなったが、20代男性のみ評価が高まっており、若い男性ならではの感性で、地域に元気の兆しを感じ取っているのかもしれない。

【性年代別 地域元気指数・幸せ指数（散布図）】



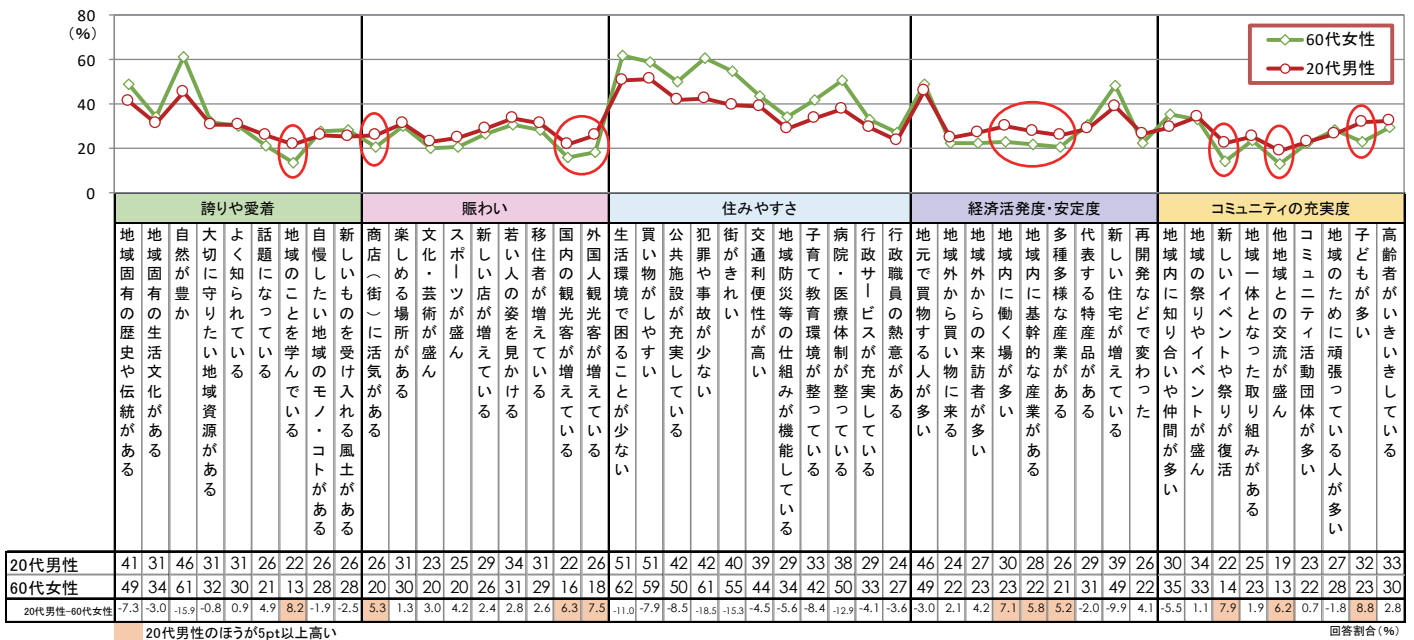
【性年代別 地域元気指数】

		20代	30代	40代	50代	60代
男性	2019	5.72	5.58	5.45	5.37	5.64
	前年差	0.13	-0.06	-0.01	0.00	0.01
女性	2019	5.95	5.92	5.74	5.63	5.98
	前年差	-0.05	-0.03	-0.09	-0.02	-0.12

●**20代男性は、地域に新しい変化をもたらす人材として期待大。**

若い男性ならではの感性を探るため、20代男性を地域の元気を最も感じている60代女性と比較した。20代男性は「地域のことを深く知ったり学んでいる」「新しいイベントができた・地域の祭りが復活した」「他地域との交流が盛ん」などの項目で、他の性年代に比べ最も評価が高く、地域の新しい動きに関心を示し、地域を越えての交流に注目するなど、地域コミュニティに積極的な態度がうかがえる。若い男性は、地域に新しい変化をもたらす人材として期待が高い。

【20代男性・60代女性 地域元気の評価 47要素】（「当てはまる」「やや当てはまる」の合計）



《都道府県別結果》

●2019年の地域元気指数 都道府県では沖縄県が第1位、東京都が第2位。前年からの増加幅では岡山県が第1位。

全都道府県における地域元気指数のランキング上位をみると、沖縄県（6.19）が昨年に続き1位をキープ。東京都（6.06）は昨年1位から2位にランクダウン。3位は福岡県（6.04）で昨年7位から順位を上げた。一方、昨年からの増加幅では、岡山県と福岡県（ともに0.15増）が同率で1位、広島県と京都府（ともに0.14増）が同率で3位。

【地域元気指数 都道府県ランキング上位】

( )内は前年調査結果

順位	都道府県名 サンプル数	地域元気指数
1位 ← (1位)	沖縄県 n=1,220	6.19 ↗ (6.17)
2位 ↘ (1位)	東京都 n=5,171	6.06 ↘ (6.17)
3位 ↗ (7位)	福岡県 n=3,928	6.04 ↗ (5.89)
4位 ↘ (3位)	神奈川県 n=3,352	6.03 ↗ (6.02)
5位 ← (5位)	愛知県 n=6,853	5.90 ↘ (5.91)
6位 ↗ (11位)	京都府 n=2,039	5.89 ↗ (5.75)
7位 ↗ (8位)	大阪府 n=6,279	5.88 ↗ (5.87)
8位 ↘ (5位)	石川県 n=1,137	5.82 ↘ (5.91)
9位 ↘ (4位)	兵庫県 n=4,013	5.81 ↘ (5.94)
10位 ↗ (13位)	広島県 n=1,749	5.78 ↗ (5.64)
全国平均 n=100,000		5.66 ↘ (5.69)

【地域元気指数 増加幅上位都道府県】

順位	都道府県名 サンプル数	地域元気指数		
		増減	2019年	2018年
1位 17位	岡山県 n=1,305	↗ 0.15	5.54	5.39
1位 3位	福岡県 n=3,928	↗ 0.15	6.04	5.89
3位 10位	広島県 n=1,749	↗ 0.14	5.78	5.64
3位 6位	京都府 n=2,039	↗ 0.14	5.89	5.75
5位 43位	和歌山県 n=1,077	↗ 0.12	5.00	4.88
全国平均 n=100,000		↘ -0.03	5.66	5.69

※増減は「2019年地域元気指数」-「2018年地域元気指数」で算出

●市部門は愛知県長久手市が堂々の4年連続第1位、福岡県福岡市が第2位。福岡県の市が躍進。

市部門（614市）における地域元気指数のランキング上位をみると、愛知県長久手市（7.20）が堂々の4年連続1位を維持。2位の福岡県福岡市（6.90）、4位の福岡県福津市（6.78）、6位の愛知県日進市（6.68）などが順位・地域元気指数ともに大きく上昇。トップ10に福岡県から4市がランクイン。

町村部門（230町村）における地域元気指数のランキング上位をみると、1位が福岡県新宮町（7.27）で昨年2位から1位に躍り出た。2位が沖縄県北谷町（7.19）、3位が沖縄県与那原町（7.00）と続く。都道府県・市町村ランキングともに、福岡県の躍進ぶりが目立つ結果となった。

【地域元気指数 市別ランキング上位】

( )内は前年調査結果

順位	市名 サンプル数	地域元気指数	市規模
1位 ← (1位)	愛知県長久手市 n=173	7.20 ↘ (7.60)	5~10万人未満の市
2位 ↗ (17位)	福岡県福岡市 n=155	6.90 ↗ (6.48)	政令指定都市
3位 ↗ (4位)	兵庫県西宮市 n=220	6.80 ↘ (6.87)	30万人以上の市
4位 ↗ (12位)	福岡県福津市 n=140	6.78 ↗ (6.64)	5~10万人未満の市
5位 ↘ (2位)	千葉県浦安市 n=198	6.75 ↘ (6.97)	10~30万人未満の市
6位 ↗ (13位)	愛知県日進市 n=178	6.68 ↗ (6.63)	5~10万人未満の市
7位 ↘ (3位)	沖縄県石垣市 n=56	6.65 ↘ (6.94)	5万人未満の市
8位 -	福岡県那珂川市 ※ n=114	6.61 ↘ (6.65)	5~10万人未満の市
9位 ↘ (6位)	東京都武蔵野市 n=236	6.60 ↘ (6.79)	10~30万人未満の市
9位 ↗ (28位)	福岡県大野城市 n=200	6.60 ↗ (6.30)	5~10万人未満の市
ランキング対象「市」平均 n=79,181		5.74 ↘ (5.77)	

※福岡県那珂川市：2018年10月に市制施行

※ランキング対象市町村の基準

○市：サンプル数が50件以上かつ人口3万人以上

○町村：サンプル数が20件以上かつ人口1万人以上

※東京特別区部は、一体でカウント

※人口規模は、平成27年国勢調査時点での人口で分類

【地域元気指数 町村別ランキング上位】

( )内は前年調査結果

順位	町村名 サンプル数	地域元気指数
1位 ↗ (2位)	福岡県新宮町 n=59	7.27 ↘ (7.32)
2位 ↘ (1位)	沖縄県北谷町 n=34	7.19 ↘ (7.35)
3位 ↗ (7位)	沖縄県与那原町 n=22	7.00 ↗ (6.62)
4位 ← (4位)	熊本県菊陽町 n=72	6.68 ↘ (6.90)
5位 ↘ (3位)	沖縄県南風原町 n=41	6.59 ↘ (7.26)
6位 ↗ (8位)	山梨県昭和町 n=37	6.55 ↘ (6.57)
7位 ↗ (26位)	沖縄県八重瀬町 n=36	6.44 ↗ (6.19)
8位 ↗ (68位)	京都府大山崎町 n=33	6.42 ↗ (5.72)
9位 ↗ (16位)	奈良県王寺町 n=46	6.39 ↗ (6.36)
9位 ↗ (14位)	福岡県粕屋町 n=100	6.39 ← (6.39)
ランキング対象「町村」平均 n=9,822		5.47 ↘ (5.50)

■ランキング対象市町村数(2019年10月1日時点)

○市：614(全市の77.4%)

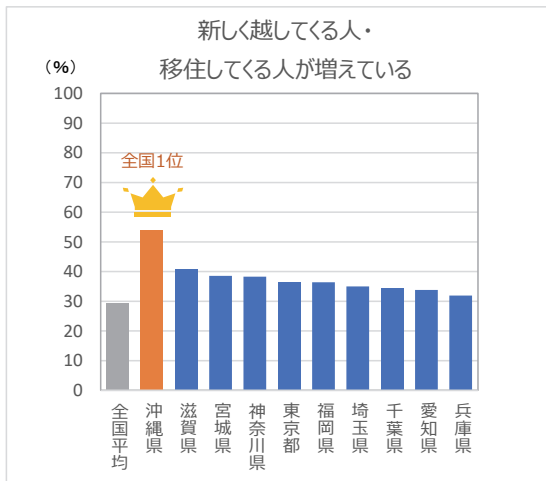
○町村：230(全町村の24.8%)

計：844市町村

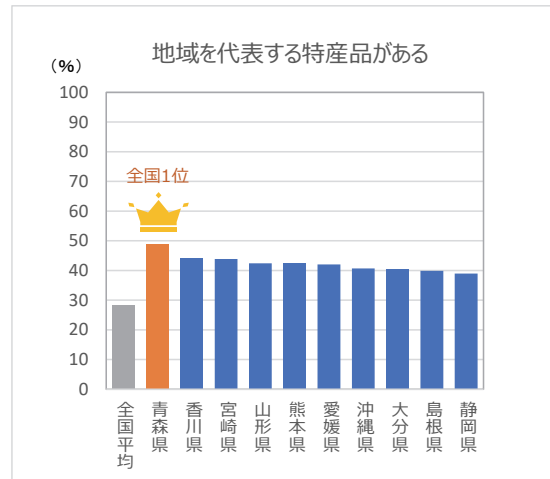
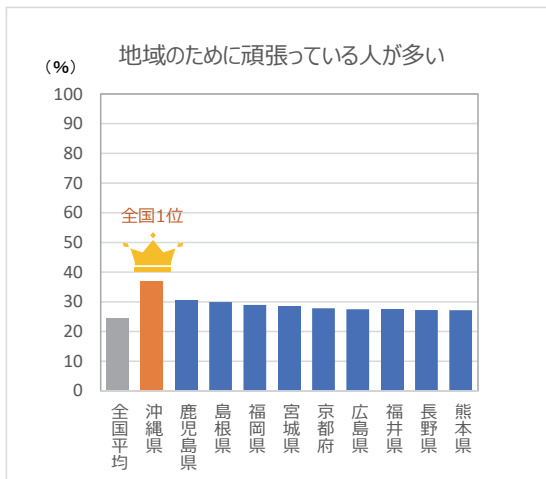
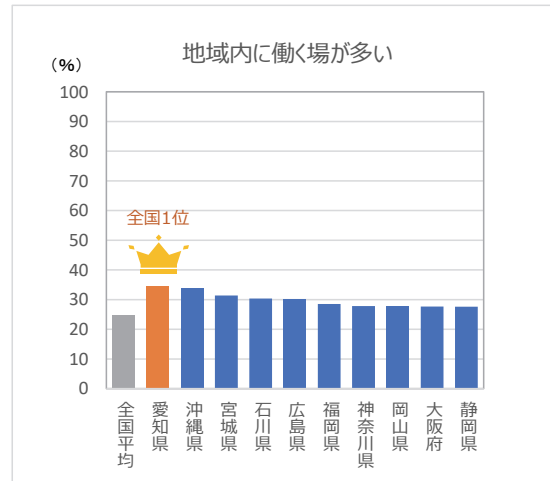
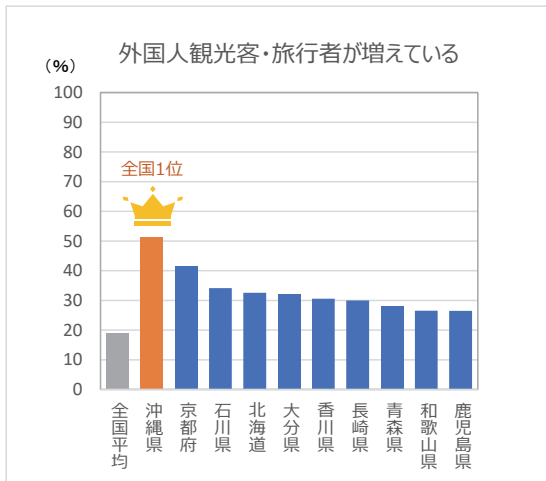
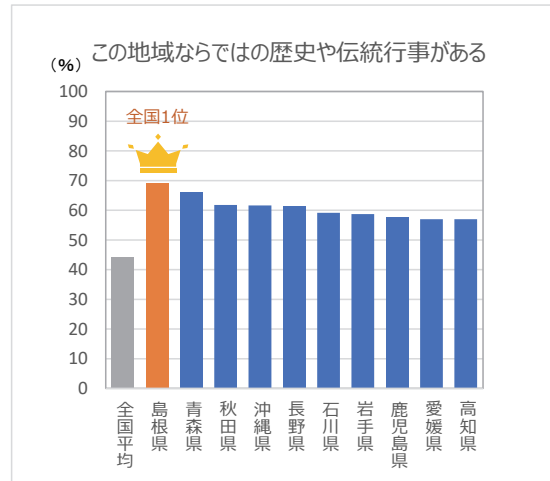
●**沖縄県は多くの要素で他県を上回っている。しかし、各県にも強みがある。**

地域元気指数第1位の沖縄県は、地域の元気をつくる源として設定した47要素中28要素で1位を獲得している。特に【賑わい】【コミュニティの充実度】に係わる要素はすべて1位であった。圧倒的な元気度をみせる沖縄県だが、他県が1位に輝く要素もある。例えば「この地域ならではの歴史や伝統行事がある」は島根県、「地域内に働く場が多い」は愛知県、「地域を代表する特産品がある」は青森県が1位であった。各県の強みを大切に、その強みを生かして地域の元気を高める方法を探るとともに、弱みについては上位の県をベンチマークとし、目標を設定することで、各県の課題や実情に応じた最適な対策を検討することができるだろう。

【沖縄県が1位の要素の例】



【沖縄県以外の県が1位の要素の例】



## 調査概要

【調査方法】	インターネットによる調査
【調査対象】	全国 20～69 歳の男女
【調査時期】	2019 年 8 月 3 日～8 月 20 日
【サンプル数】	100,000 人
【集計方法】	平成 27 年国勢調査市区町村人口に基づき、人口規模 30 区分×男女×年代 3 区分 = 180 区分の人口構成に従ってウェイトバック集計を行った。

## 「地域元気指数」の構成要素

地域元気指数は、その地域に居住している住民が主観的に自らの地域の元気度合いを 10 段階で評価した平均値の「地域元気指数」と、地域の元気度合いの要因を詳細に分析する「地域元気の 5 つの視点」それぞれに「地域元気の評価要素」9～11 つ、計 47 の「地域元気の評価要素」をもって構成されます。

	【地域元気の 5 つの視点】	【地域元気の評価 47 要素】	
【地域元気指数】 10 段階評価の平均	今暮らしている地域の <b>誇りや愛着</b> について	この地域ならではの歴史や伝統行事がある この地域ならではの生活文化や郷土料理などがある 自然が豊かな土地である 大切に守り続けたい地域資源がある	他の地域の人にこの地域のことがよく知られている この地域が話題になっている 地域のことを深く知ったり学んでいる 人に自慢したい地域のモノ・コトがある 新しいものを受け入れる風土がある
	今暮らしている地域の <b>賑わい</b> について	地域の商店（街）に活気がある 地域に楽しめる場所がある 音楽や文化・芸術活動が盛ん スポーツが盛ん 地域内に新しいお店や新しい施設が増えている	地域内で若い人の姿を多く見かける 新しく越してくる人・移住してくる人が増えている 国内の観光客・旅行者が増えている 外国人観光客・旅行者が増えている
	今暮らしている地域の <b>住みやすさ</b> について	生活環境で困ることが少ない 買い物しやすい 公共施設（図書館やコミュニティセンター等）や 公園が充実している 犯罪や事故が少ない 街がきれい	交通利便性が高い 地域防災等の仕組みが機能している 子育て環境や教育環境が整っている 病院・医療体制が整っている 行政サービスが充実している 行政の首長や職員が熱意をもって仕事をしている
	今暮らしている地域の <b>経済活発度・安定度</b> について	地元で買い物をする人が多い 地域外から買い物に来る人がいる 地域外からの来訪者・観光客が多い 地域内に働く場が多い 地域内に基幹的な産業がある	地域内に多種多様な産業・事業所がある 地域を代表する特産品がある 新しい住宅やマンションが増えている 再開発などで街が変化し地域が魅力的になった
	今暮らしている地域の <b>コミュニティの充実度</b> について	地域内に知り合いや仲間が多い 地域の祭りやイベントが盛ん 新しいイベントができた・地域の祭りが復活した 地域が一体となって取り組んでいることがある 他地域との交流が盛ん	住民・コミュニティ活動団体が 地域のために頑張っている人が多い 子どもが多い 高齢者がいきいきしている

## 「地域元気指数調査」の活用イメージ

本調査結果は、都道府県別・市町村別にアウトプットし、各地域の地域運営に資する有益なデータとして活用していただきたいと考えております。例えば、地域元気の評価 47 要素を詳細に分析することによって、各地域の元気を支える要因や、弱い項目＝地域課題を明らかにし、これからの施策立案や地域住民との相互理解に役立てることが出来ます。  
また、経年調査であることから、施策の KPI（重要業績評価指標）のひとつとして、効果検証や進捗管理等への活用も期待できます。

## 株式会社アール・ピー・アイのご紹介

アール・ピー・アイは「まちづくり」を中心とした、調査・コンサルティング・事業プロデュース・運営サポートを行う会社です。  
私たちは地域づくりのさまざまな分野、場面において、地域が抱えるテーマに対し、ともに最適解を導きだし課題を解決する、グッドパートナーとしてチカラになることを目指しています。  
私たちは、地域を元気にし、より多くの人々が幸福な生活をおくることのできる地域社会の実現に向けて、これからも労を惜みず、情熱をもって努力し続けます。